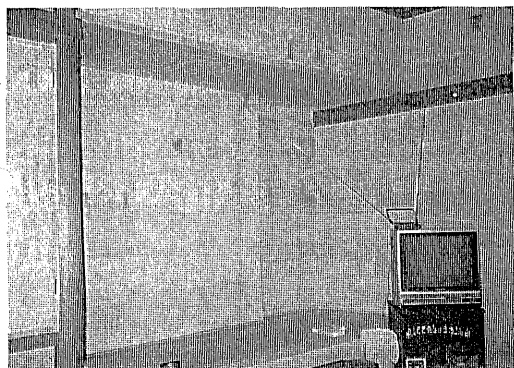


注目される珪藻土

調湿機能持つ壁装材として有望

鈴
5-5-29
木



稚内層珪質頁岩を利用した調湿機能タイルの試作品を内装材として施工した住宅の一室。

社・旭川市 鈴木産業(株)社長 鈴木産業(株)社長 鈴木産業(株)社長
が本道の天北地域に大層に賦存する珪藻土のなかで、稚内

鈴木産業 稚内層に着目

道立工業試験所に分析を依頼

新在来木造構法の普及、同構法をへしにした北方型住宅、新省工木造住宅のPR効果もあって、最近の在来軸組住宅は断熱・気密、とりわけ断熱性能を〇〇%発揮させるための気密性能が一段と向上し、隙間相当面積で平方メートルが、これからの最低水準と意識して施工する住宅メーカーが増えきた。将来的には「平方メートル」は平方メートルを目標とするところになるが、取りあらず新省工木造規格された気密住宅で目標を示されたこの意義は大きい。しかし、断熱・気密化だけでは、これま、極まってきた結露、カビ、ダニの問題は解決しない。暖房、換気設備との整合性が求められる。注目されている。

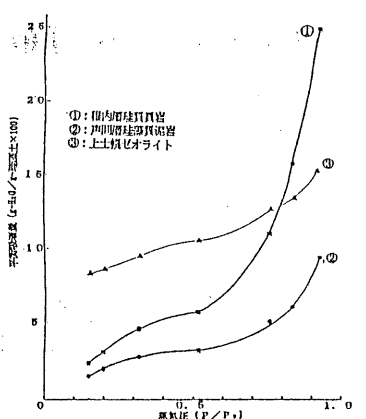


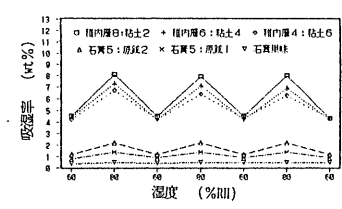
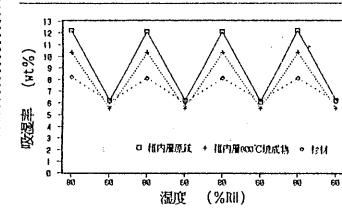
図1 H₂O吸着等温線(二十度C)

多孔質構造 メカニズム 徐々に解明

調湿機能に関しては、現在のところ、そのメカニズムは解明されていないが、稚内層珪質頁岩は極めて特徴のある細孔構造を持った熱的、化学

試作タイルを住宅に施工 部屋の湿度60%前後 優れた吸着性能も

石等に添加した調湿剤材料の吸着変化を図3に示している。3に示されているのは、調湿機能のほかに石にない粘土や石膏に配合する(1)に比べて、その機能が動き、配合量が多ければ機能も大きくなることとわかった。



このように稚内層珪質頁岩を利用したタイルは極めて調湿性、吸着性能が優れている。このタイルは稚内層珪質頁岩と野崎レンガ製地粉を配合して焼成している。このタイルは稚内層珪質頁岩と野崎レンガ製地粉を配合して焼成している。このタイルは稚内層珪質頁岩と野崎レンガ製地粉を配合して焼成している。

高湿でもガラスが融けにくい特性がみられる。また、この珪質頁岩を熱処理によって精製し、工業原料として高品質化する技術についても一定の見通しを得た。このように、稚内層珪質頁岩は様々な機能を有したセラミックス原料として幅広い用途が期待できる。

発行所
北海道住宅新聞社
〒001 札幌市北区北29条西4丁目2の1の201
電話 (011) 736-9811 (代表)
発行人 白井 五
発行日 毎月 5、15、25日
購読料 送料共 1ヶ月 3,090円

自然換気用フード

埋込型

防風板 一体型
防風板 シェット
強風をシャットアウト!!

株式会社キョウナス
札幌支店
〒060 札幌市東区北6条東4丁目
知念ビル9号館 ☎(011) 741-2250 (代)

外野席

森林の環境保護といふことで昨年から輸入木材が値上がりしており、ツバーイフォアのランパは不足状態にある。このままでは、受注の一部をツバーイから在来に切り換えなければ、という話の噂が聞かれる。合板も最近少し落着いてきたが、今春には激しい値上がりとなった。こうした背景に加えて、パフル崩壊後の売れ行き不振もあって、このように木質建材、例えばフローア、二次加工合板、木質繊維等の値上げが、さらには国産材の追従値上げが行われている。

景気対策の柱となっている住宅建設は、公庫の金利が史上最低、しかも融資額のアツプなどの好条件がそろっていき、ようやく活気が戻ってきた。インホーム建設、分譲住宅の売れ行き悪影響がなければ、と気にならなくなった。輸入木材は、この先どうなるのだろうか。

米材環境問題からくる生産規制の輸出が限られてきた。カナタ材は原木ではなく、ランパの輸出に力を入れていくが、丸太の生産量が年々減り、やはり環境保護の問題がある。南洋材丸太は昨年から値上がりし、今春には合板丸太が二倍以上に値上がりした。

輸出側は、原材料の少なくなったのは値上げすればカバーできるが、それも輸入側の買手がいてこそ成立するわけで、買手の日本側としては量的見直し、価格の安定、しかもその価格が安当なものではない、と見なされる。このように、これをどうしても不透明、先が見えない。